

映画のシーンを利用した動画フラッシュカード

田淵 龍二 (ミント学習教室)

■ はじめに

児童英語を中心に、フラッシュカードを使った語学学習は一般的な手法である。しかし、静止画の場合、動きに関わる単語や文例に関しては、効果に欠ける。また、学習に使用される単語や文例が、前後の脈絡や背景から切り離されると、単語や文例自身の説得力を欠くことから、「実際の会話や文章表現の場で自然に使えるようになる」という課題に対して、今ひとつの感があった。

フラッシュカードを動画にすることにより、とりわけ動作にかかわる単語や表現の効果的な学習を支援することが可能となる。さらに、こうした動画映像を映画のシーンから切り出してくることにより、単語や用例の持つ意味合いを、場の雰囲気や思想、感情とともに学習することができる。

■ 主題

ミント学習教室は「音声や映像を利用して語学学習を支援する」ことをテーマとしている。今回は、映画を語学教材として利用する可能性を迫及した研究開発の中から、動作語彙のフラッシュカード開発の現状とその活用を報告する。

■ 映画による動画フラッシュカードの目的

「リンゴ apple」とか「犬 dog」のように形があるものは静止画でも構わないが、「走る run」とか「見る see, look, watch」のような動作の場合には、動画のほうが勝っている。さらに、映画映像のストーリーの中で単語を使うことにより、単語が生きてくることから、学習者に単語を使うための強い動機付けとなる。

■ 映画による動画フラッシュカードの原理

映画には2系列の情報があり、「会話=台詞 dialog」と「動作や舞台説明=ト書き stage directions」であるが、映画のシーンを利用した動画フラッシュカードの作成にあたっては、「ト書き」を利用することになる。

まず、映画をシーンごとに分割し、それぞれのシーンにト書き情報を書き込む(映像と文字の同期)(注1)。これにより、文字から、特定のシーンを検索抽出できるようになる。たとえば「run」という単語で検索すると、その映画の中での「走る」シーンが次々と再生できる(データベース検索)(注2)

■ 映画による動画フラッシュカードの作成

例えば映画の中の走るシーンには、複数の人物とさまざまな動きが混ざっていて、1つの単語 **run** だけで代表するのは無理がある。そこで、**run** という動作が中心となるような最適なシーンを探すことになる。しかし、どんな最適なシーンでも、純粹に **run** だけのシーンというものはありえないので、幾つかの **run** のシーンを使うことによって、それらのシーンに共通している**動作概念としての run** を認識できるようにする。ここでは、そのシーンの数を3つとした。

また、**run** のシーンはあくまでも動作映像だけなので、言語概念としての単語 **run**（音声と文字）の提供も必要となる。

こうして、映画による動画フラッシュカードは、単語カード1枚と映像カード3枚を1組として作成されることになった。

■ 動画フラッシュカードの利用方法

- A) 基本:** 最初に **run** という単語カード(音声と文字)を提示し、引き続いて **run** のシーンカード3枚を順に提示することにより **run** という単語を「走る」という日本語に置き換えしないで、**run** という動作として教える。**母語に頼らない教授法**の有力な柱となると予測される。
- B) 発展:** 同じ **run** というシーンカードでも、実際には走り方、走る目的が異なるので(そう言う風を作っておく)、それぞれのシーンの英語表現を **run down** とか **run back** などと教える。シーンに含まれる多彩な映像情報を、学習者のレベルや反応に応じて、さまざまな英語表現を提供することで、単なる単語動画フラッシュカードの域を越えた、英語表現学習へと発展させることが可能となるだろう。
- C) クイズ:** カードの提示順を逆にすることで、クイズ形式の学習を行なう。最初に **run** のシーンを3つ提示し、それらに共通する動作を表す単語を答えさせる。答えが必ずしも1つと限らないクイズとなるので、奥行きのある、参加型授業となる。

■ 実践報告

発表では、「オズの魔法使い **The Wizard of Oz**」(注3)のシーンを利用した映画フラッシュカードの実例を紹介する予定である。

(注1) ミント学習教室が開発したIT技術(特許)

(注2) マルティメディアプレーヤーミントの「音のコーパス/データベース検索」機能を利用

(注3) Metro-Goldwyn-Mayer 1939年作品/著作権の保護期間は終了/映画の著作権については夏の2006年 LET 第46回全国大会で発表予定

